

1 第3回学校活性化勝浦郡地域協議会における論点整理

- ・日 時 平成19年6月1日
- ・場 所 勝浦高等学校 研修館
- ・議 題 新しい学校の基本コンセプト

分校化について

法律では、本校の規模は1学年80人を下らないと決まっており、現在60名となっていることから、本校で残すことは難しい。また「高校再編方針」では、「勝浦高校は、農業教育を基本に、勝浦分校として存続を図る」となっており、分校として存続を図るとする以上、きらっと光る学校としてほしい。

他県には、分校であっても生徒が生き生きとし活躍している学校もあり、分校だから生き残れないと決めつけるのではなく、生き残るにはどうすればよいか建設的な議論をすることが大切である。

大学科は農業科としても、上級学校に進学する、LEDを学ぶ、ITを学ぶ、福祉を学ぶなどを考えたとき、小学科は2つでは少なく、3つや4つは必要であり、そうすれば80人も確保できて分校ではなくなるのではないか。

子どもにとって部活動は重要であり、生徒数が少なくなれば、部活動も制限される。県下全体で生徒数が減っている現状はあるが、他から定員をもってきてでも、ある程度の人数規模を確保してほしい。分校となっては魅力がなくなる。

分校とか、本校とかの細かい議論でなく、どのように魅力づくりをし、他地域からでも来てもらえる学校としなければ、学校そのものがなくなる。そのためには、1点に絞ることが大切であり、それは子ども達に夢を与えるものでなければならない。

少子化の現状をみれば、学校の存続そのものを議論するときに数年先に来ている。本校、分校とかでなく、互いが違うキャンパスの中で生き残っていくことを考えるような発想を持たないと、少子化の子ども達を支えきれない。

設置学科と教育内容について

農業は食，すなわち生命にかかわる重要な問題であり，決して衰退させてはいけない。

高校選択の際に一番重要なのは，将来，どういう進路（就職）がとれるかである。この学校にすれば，どんな力が身に付くかわかってもらえるようきちんと示すことが大切である。

学科と教育内容も大事であるが，もっと進路が明確にわかるようにすることが大切である。進路先を絞り込んで具体的に書き，そのためのコースとした方が，ずっと分かりやすく理解しやすい。

ITやホームページ作成技術を教えてくれる，LEDを学ぶことによって研究部門に就職できる，また人気のリハビリ関係の専門学校に進学できるとなれば，中学生や保護者には，非常に魅力ある学校となると思われる。

多様な教育を展開してきたにもかかわらず，希望生徒が少ないとの現状を踏まえ，学科を増やすのではなく，新しい学科をニーズに応えられるような学科となるよう考えることが大切である。

学校間連携について

学校の魅力や先輩の活躍を知るためにも，学校間連携を一層深めていくことが必要であり，そうすることによって中学生が行きたい，学びたい学校になってくる。

2 新しい教育について